

令和3年度 久留米市文化財専門委員会 会議録

1. 開催日時：令和3年12月15日（水） 14：00～15：30

2. 会 場：えーるピア久留米 209研修室

3. 参加委員：木下尚子委員、横山邦繼委員、重松敏彦委員、大森洋子委員、森山秀子委員
永松義博委員、橋川ひろみ委員、鳥丸貞恵委員、久富真人委員、堀田秀茂委員

4. 事務局：竹村、水島、白木、水原、塚本、神保、辻

5. 議 事

(1) 開会、部長挨拶、委員会成立報告

(2) 議案：久留米市指定文化財の解除について

※ 配付資料に基づき、事務局および専門部会から説明

【質疑応答】

(委 員) 300年以上前の「久留米藩領図」には樹木は描かれているのか。

(事務局) 領内の街道は描かれているが、一里塚の記載はない。

(委 員) どれくらいの樹齢の樹木か。

(部 会) 心材が腐朽しているので樹齢の確認はできない。300～400年の可能性はあるものの、一般的に榎などの広葉樹は長生きするものでもない。

(委 員) 地域にとって一里塚は一つのシンボルだと思う。経過が分かるような説明板があると良い。

(事務局) 指定解除になった場合、経緯を含めて説明板の作り替えは必要だと考えている。

(委 員) 根元から撤去する考えか。もし撤去するのであれば、天然記念物として榎があったことを説明板にも加えていただきたい。

(事務局) 安全面から伐根する必要があると思う。板面の内容もその方向で考えていく。

(委 員) 一里塚は史跡としては解除しないという認識で良いか。

(事務局) 指定名称は一里塚のまま、史跡としての解除もしない。

(委 員) 撤去後、新たに榎を植える考えはないか。以前、太郎原一本杉に行ったが、何もなかった。

(事務局) 今のところ、新たに植える考えはない。

(部 会) 樹勢回復の見込みがない場合、クローンを作って植える場合もあるが、今回のケースでは榎そのものに希少性があるわけではなく、木も完全に枯死しているのでクローンを作ることは不可能。

(委 員) 一里塚の隣にある木は関係があるのか。

(事務局) 自然に生えてきたアラカシ。成長が早いので、ここ2～3年でこの高さになり、電線にも接しつつあるので伐採する必要がある。

(委 員) 説明板を作り直すのであれば、榎が立っていた状況の写真も入れて欲しい。

(事務局) その点も考えて説明板の貼り替えも行う。

(委員長) 指定文化財の解除について承認をお願いします。

*全員一致で承認

(3) 報告1：令和2年度の事業報告

※ 配付資料に基づき、事務局から説明

【質疑応答】

- (委員) 埋蔵文化財の事前確認で、決定協議をした後、業者が基礎を多く打ったりするケースもある。基礎工事の際に立ち会うシステムはあるか。
- (事務局) 着工の際には職員が現地で立ち会うようにし、杭の本数なども確認している。
- (委員) 36 ページの出前講座とはどういった仕組みか。またどのような方が受講されるのか。
- (事務局) 市の協働推進部の中に出前講座というメニューが 112 講座ある。文化財ではその中で 3 つのメニューを受け持ち、地域や学校からの依頼が多い。特に校区の高齢者学級や女性学級からの要望が多い。
- (委員) コロナ関係で博物館の展示やイベントなどが中止や延期になっている。動画での配信などは行っているか。
- (事務局) 展示に代わる取り組みとして、いくつが動画を作成した。「むかしのくらし展」に学校が来られなくなったため、動画を作成して学校の授業で扱っていただいているほか、市の公式 YouTube でも配信しているものもある。
- (委員) 事業名から「歴史博物館」の名が消えたのは残念。久留米市には多くの歴史遺産があり、筑後の歴史で重要な役割を果たしているのに、これらを活用して市の歴史を通史的に学ぶ施設がない。事業名から歴史博物館の名が消えると、博物館の必要性まで否定されたように受け取れる。
- (事務局) 現状では箱モノを造るというのは非常に厳しい。資料の収集は継続し、また所蔵資料を展示や動画などを使って積極的に情報発信して、市民から「もっと実物を見たい」と感じていただけるような取り組みを進めていきたい。
- (委員長) 市民からそういった声が出るよう、情報発信も行うことを強く望む。
- (委員) (令和 3 年 11 月 13 日付の) 西日本新聞に筑後国府跡のことが出ていた。現在はそのような状況か。
- (事務局) 史跡指定から 25 年を経過したが、整備には程遠い状況。指定地のうち 86%ほどは公有化が進んでいるが、年 4 回の除草業務を行っているのが実状。都市計画道路の開通も先が見えてきている状況であり、地権者や地域からの要望もあるので、地元と一緒に、一日も早く整備に繋がれるように努力していきたい。
- (委員) 久留米市文化財保存活用地域計画の今後の運用について。
- (事務局) 地域と一緒に進めていくために、今後も各コミュニティセンターへの情報収集を継続していく。またワークショップの実施も考えている。
- (委員) 説明板の多言語化などのガイドラインは作成しているか。観光部局と文化財部局とでは違いが出る場合があるので、体裁を統一するのが望ましい。
- (事務局) ガイドラインは作成していない。説明板は順序を決めて板面の貼り替えなどで計画的に改修している。できる限り情報についても部局を超えて体裁を整えていきたい。

(4) 報告 2 : 令和 3 年度の事業概要

※ 配付資料に基づき、事務局から説明

【質疑応答】

- (委員) 入城 400 年の事業では、権力者側の視点ばかり取り上げられている。歴史は多面的なものであり、例えば宝暦一揆のように犠牲者からの視点も必要。犠牲者の墓があっても説明板もない。非支配者層からの視点も重要だし好感が持てるのではないか。
- (事務局) どうしても派手な部分に目が行きがちになった点は反省している。今年度もラジオ番組では宝暦一揆もテーマに取り上げた。また次年度の展示では、庶民から見た視点での企画展も予定している。

また、入城 400 年事業は今年度で終わりではなく、これからが次の 100 年に向けてのスタートでもある。久留米市内だけではなく、久留米藩領という中での視点を広げ

る必要があり、町民側からの視点も今後は分かりやすく触れていきたい。

(5) 報告3：今後の登録有形文化財（建造物）候補について

※ 配付資料に基づき、事務局から説明

【質疑応答】

(委員) 久留米には久留米藩ゆかりの庭園が多く残っているが、近年、多くの庭園が消失の危機にある。有馬主膳の別邸や、東森堂の作庭の庭園もあるが、入城400年でも全く取り上げられていない。久留米の庭園は水景を含めて独特の作庭文化があり、再三申し上げているが、一向に調査が進んでいない。

(事務局) 貴重なご意見をいただき感謝。改めて久留米の庭園について情報をいただき、ご教示お願いしたい。

(委員長) 色々な関連文化財があるのも久留米の特徴。地域計画も策定されたことだし、ぜひ進めていただきたい。

(委員) 文化財の指定候補になる情報収集の方法は。

(事務局) 1990年頃から近代化遺産や産業化遺産について、国主導での調査があった。その際のリストをベースに、その中から登録文化財の候補を抽出する事例が多い。

(委員) 専門委員会の意見がなかなか反映されていないと感じる。委員会に先立ち、事前に意見を徴取するようなシステムを作り、その内容を委員会の中で議論するという道筋を作れないか。

(事務局) 今は報告事項が中心となってしまっている。専門部会もあるし、文化財の指定候補などを挙げていただき、それを委員会の中で議論するのは可能。

(委員) 何か提案があれば、紙1枚でもいいので、事前に意見カードのようなものをお送りいただくと有難い。その方が効果的だと思う。

(事務局) 次の専門委員会から実践していきたい。

(委員長) せっかくの専門委員会なので情報の共有をしっかりとできるようにお願いしたい。意見が放置されているのかどうかすら分からない。

(事務局) 相互の情報共有を含め、色々な案件がでてきた時には、委員の皆様にご相談できるような体制や姿勢を作っていきたい。

(6) 報告4：久留米市文化財保存活用地域計画について

※ 配付資料に基づき、事務局から説明

【質疑応答】

(委員) 筑後川遺産として新しいストーリーが出てきた場合の取り扱いは。

(事務局) 計画に掲載しているのは初動期のもの。今後は市民・地域・行政が一体となり、事業者から上がってきた提案を議論し、それを地域計画協議会の中で議論していただく。今のところ、数の上限は定めていない。

(委員) 受付や周知の方法は。

(事務局) 受付は文化財保護課で行う。今年度に概要版を印刷するが、それだけでは周知が計れないため、文化財保護団体や地域のコミュニティセンターなどに出向いていきたい。

(7) 報告：その他

【質疑応答なし】

6. 閉会挨拶（事務局）